パーマネントコース紹介

安芸の小京都の名残を求めて

竹原東野コース 広島県竹原市

大高竜亮

安芸の小京都、竹原小早川氏の居城。昔の名残が今なお強く残っている。

「竹原東野」コース
広島県 No.19　JOA 公認 No.321
10km 10 ポスト

昭和スタイルのコース

山岳コースの多い広島県下のパーマネントコースの中で、異端ともいえるのが瀬戸内海に面した竹原市に設置されている「竹原東野(とうの)」コースです。

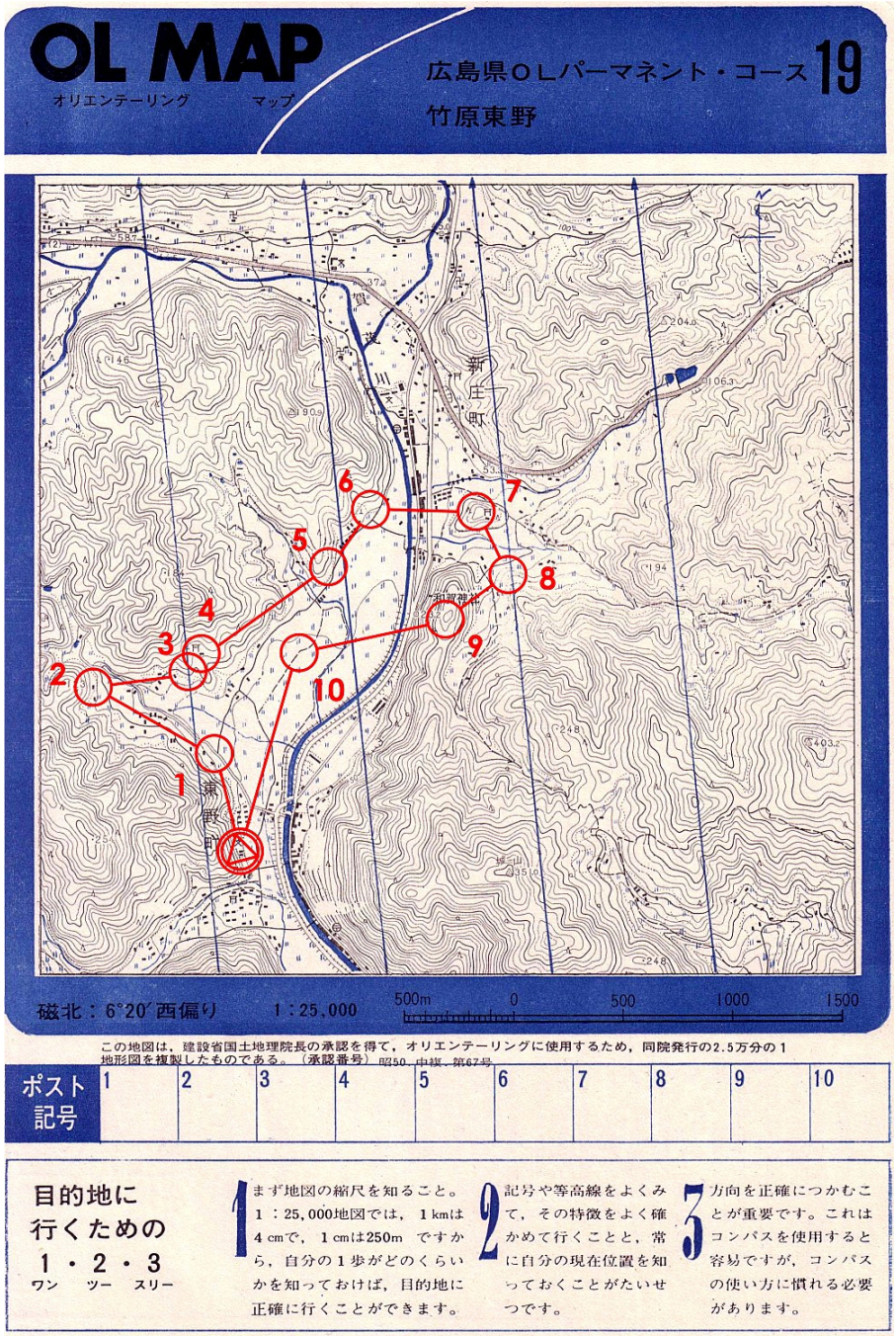
昭和 54 年に広島県 OL 協会から発行された「広島県パーマネントコース一覧」の紹介では「女性の立場になって設定した」と記されている通り、山すそにある文化財や遺跡を巡る平地中心の設定になっています。

現地までは広島市内から山陽自動車道を利用して車で 1 時間ほど。鉄道を使うと JR 呉線竹原駅から西条方面へ向かう芸陽バスが走っています。

スタート地点は竹原市中央部の「東野公民館」。正面右手に平成 5 年に更新された案内板が置かれています。10 年前に訪れたときと同じたたずまいに一安心。前回は案内板の下に箱があり、無造作にマップが放置されていましたが、今回は見当たりません。土曜日ということもあり、公民館も休みのため持参した地図を使います。これから訪れる方は広島県 OL 協会から事前に入手しておくことをお勧めします。案内板のマスターもほぼ消失しています。

スタート地点の東野公民館

地図は開設当初から変わらぬ国土地理院の複製である 1:25,000。アプローチする道が記載されていないポストが多く、その昔はこうした推理を楽しんでいたことを思い出します。



午後 2 時前にのんびりとスタート。東野小学校の横を抜け、地図に記載の道路にまずは出ます。女性向けというだけあって最初のポストはいたってカンタン。舗装道路を緩やかに上って行くと分岐があり、その先にあるトタン造りの小屋の裏にポストが置かれています。

右手にこれから回るエリアを一望しながらコース最西端の山間を目指します。このポストはなかなか難物です。道から南にやや入ったところにあるポスト。うっかりしていると入る個所を通り過ぎてしまいそう。さらにこの道を見出しても、ポストへのアクセスに少々戸惑います。幸いなのは小さな神社の境内にあるポストは道からひょっこり見えており、直前まで来ると確認可能です。最短路と思い、藪に突入。動物の防護柵の設けられた境内に到達

しましたが、もう少し先まで行けばアクセスする道がしっかりとついていることが後になって判りました。

第 3 ポストはいったん出戻りです。この 3 と次の 4 は道の記載がなく、どこから道が通じているのか推理を働かせつつ歩いていきます。左手に入る道路にあたりを付け、山すそから離れないように進んでいくと、さらに左手に入る小道が現れます。前回のことをすっかり忘れているため、半信半疑ながら入っていくと、思いのほか立派なルートが通じていて、墓地の脇にあるポストが姿を表します。

史跡を巡るコース

きれいな道を進むと第 4 ポストのある賀茂神社はあっという間。コース設定上、ポスト間の直線距離が近接していても、ルートはぐるりと回ったりするものですが、ここは一直線で到達します。神社本堂の裏に広がる林の際に分かりやすくポストは立っています。

「安芸の小京都」と呼ばれる竹原市。「賀茂」の名称が語るとおり、平安末期から京都下鴨神社の社領地として発達した歴史があるそうで、こうした京都を模した街づくりが進められていた頃の名残が数多く残されています。

賀茂神社

参道を下り、鳥居をくぐると地図上の道に到達します。ここからまたしばらく道路を歩くやさしいルート。第 5 ポストに向かう途中、右手を見るとビニルハウスの前に立つ最終ポストが遠くに確認できてしまいます。左手の山がいったん途切れ、橋を渡ると次のポストはもうすぐ。花崗岩に武装忿怒の形をとる毘沙門天を彫り込んだ毘沙門岩の横に第5ポストが置かれています。毘沙門天の雄々しい姿を前にすると、これを刻んだ古の人と同じ空間にいるような気がしてきます。

毘沙門岩と第５ポスト

続く第 6 ポストも遺跡めぐり。同じ道をそのまま進み、第 7 ポストへの分岐を過ぎてすぐに竹原小早川家墓地の案内があり、これに従って小道を進むと宝篋印(ほうきょういん)塔と五輪塔が配置された墓地が現れます。ポストは山に向かう道を少しだけ上った地点で確認できます。

スイスイとここまで来ましたが、終盤に小高い山へのアップダウンが 2 回待ち構えています。1 度目が次の第 7 ポスト。コース中央を流れる賀茂川を渡り、国道 432 号線を横断、山の北側に回り込んで山道に入っていきます。比較的緩やかな勾配ながら、コース初の登りに額に汗が滲み、程よく体が解れたころに山頂に到達します。小さな社があり、その横に第 7 ポストが控えるように立っています。ここから下ると総都八幡神社境内に抜け出します。本来は神社の参道を往復するのがこの山の登り方のようです。境内で目を惹くのは 2 基の石灯籠。足の部分に「ペルー國渡航歸國記念」と記されており、その日付が大正十三年というのだから驚き。献納者に坂上熊助と記されているものの、この人は著名な方ではないようです。今から85年前に南米へ渡り、帰国時には石灯籠を建てた坂上熊助。いったいどんな人物だったのでしょう。

両脇に正月らしく門松の飾られた石段を下り、道路に出ます。第 8 ポストは地図にない広い道が出来上がっていますが、目指す尾根が明確な目標になっているため、不安になることはありません。このあたり、地図には道の記載がなく、山に向かう道を選んで進むだけ。尾根の向こう側に回り込むと、ポストは半ば埋もれ気味に待っていてくれました。

最後に最高地点へ

第 9 ポストがこのコースのハイライト、木村城跡。コース最高地点まで登ります。山の東側から登山道が通じており、道標に従って 2 度目の山登りへ突入です。山の上から野犬がひっきりなしに吠えまくるのを気にしつつ、落ち葉がふかふかと敷き詰められた小道を歩いて行きます。1 度山を登って汗をかいていることから、思いのほか楽に山頂に到達し、堂々と立つ第 9 ポストに再会しました。竹原小早川家が 300 年ものあいだ本拠とした山城も今はもうなく、わずかばかりの空き地に「本丸跡」の小さな碑が立つだけ。時刻も午後 4 時を過ぎ、西日が差しこむ山頂は、兵どもが夢のあとといった雰囲気に包まれていました。

木村城跡の第９ポスト

同じ道を下るだけのはずが、途中なぜか登りとは異なるルートをたどって木村城跡を後にし、最終ポストを目指します。すでに確認しているビニルハウスが目標です。第 7 ポストへ向かう際に通った橋を再び渡り、山に挟まれた平地のど真ん中に続く道を、ずらりと並んだキャベツを眺めながら寒さをこらえて歩いて行きます。地図に道がなくても何のその。間違うことなく目的地に到達しました。電信柱に寄り添うように立つポストは、すでに記号も消失気味。化粧直しを長いこと待ち続けているのでしょう。

ゴールまでが最長区間。夕方の黄昏迫るなか、歩みを進め所要 3 時間 9 分で終了しました。

「一年に二・三回清掃、一回ポストを移動して魅力ある十九番パーマネントコースにしたい」と設置当初は管理クラブも意気込んでいたようです。その頃の思いはすでに失われたかも知れません。しかし今も竹原の魅力、パーマネントコースの魅力を伝え続けている竹原東野コースです。

(2010 年 1 月 16 日 踏破)
(大高竜亮)